

今年春の想いを引き継いだ企画  
温故知新シリーズ第3弾

## 試験に出ない作業所の歴史

～東京の作業所の広がりを中心に学ぶ～

とうきょう会議は今年 2 月、これまで企画してきた温故知新シリーズ第 3 弾として、東京の作業所の成り立ちや広がりを中心に焦点を当てた事例事業例検討会を開催する予定でした。中止を余儀なくされたコロナ禍において、私たちとうきょう会議が話し合いを行う中で、会員の皆さまにこの企画を届けたいと改めて思いました。そこで今回、とうきょう会議の『新しい研修様式』として Zoom で開催いたします。

今、当たり前にある通所施設の前身である小規模作業所はどんな経緯で作られていったのでしょうか。精神衛生法から精神保健法、精神保健福祉法へと法律や施策が変化していく中でどのように広がり、どのように繋がっていったのでしょうか。

本研修では作業所が生まれた 1970 年代から 2000 年代の東京都の作業所の歴史を改めて学び、これからの私たちの活動を考える機会にしたいと思います。Zoom を使った、今までとは違う、ネット越しの研修とはなりますが、ベテランから新人まで広く集まり、語り合いたいと思います。奮ってご参加ください。

なお、本研修はとうきょう会議運営委員会事業「東京都における共同作業所、グループ・ホーム、地域生活支援センターの成り立ちに関する研究と成果物の編纂」の研究成果に基づく研修です。

**日時:令和 2 年 12 月 14 日(月)18:00～20:00**

17:15～18:00	受付・Zoom開始
18:00～18:10	開会・趣旨説明・Zoom説明
18:10～19:20	講義
19:20～19:30	休憩
19:30～19:55	質疑応答
19:55～20:00	閉会・Zoom終了

**講師 東貴宏 氏(地域生活支援センターリヒト 施設長)**

**参加費 無料**      **参加人数 30 名 (会員限定)**

**研修申込み** 別紙の「受講申込書」により、FAXにてお申込みください

※非会員の方で、申し込み希望の方は、QRコードからお願いします。

**申し込み締め切り:令和 2 年 11 月 30 日(月)まで**



